

知ってる？

ムササビのこと

高尾山で人々に親しまれてきた「ムササビ」。
その存在は、長年私たちに自然観察の機会を与えてくれました。
そんなムササビについて、観察会では気づけないヒミツを大紹介！
これを読んだあなたはきっとムササビに会いたくなる！？

尻尾（しっぽ）

大きな尻尾は、滑空時に舵（かじ）の役割を担うとされていましたが、最近は樹上生活でバランスをとる役割が大きいと考えられています。



足裏の毛

最大時速約 50 km で木に着地するムササビ。その衝撃を減らすために足の裏には硬い毛がびっしり生えています。

ムササビ（リス科）

学名： *Petaurista leucogenys*
英名： Japanese Giant flying squirrel
意味は「空飛ぶ巨大なリス」

飛膜（ひまく）

ムササビは、四肢の間にある飛膜を上手に使って空を滑空します。木に着地する際には上体を起こして、ブレーキの役割も果たします。

大きさ

ネコくらいの大きさですが、体重は約 1kg でネコの 1/3 程度しかありません。全長は約 70cm！日本に住むリスの仲間では最大です。

よく間違えられるモモンガ

空飛ぶ「座布団」と「ハンカチ」

高尾山にはムササビとよく間違えられる動物の「モモンガ」も生息しています。どちらも滑空することから、混同されることが多いです。「座布団」と「ハンカチ」で例えられる大きさや、色など異なる点も多いです。剥製をよく観察してみましょう！

巣穴から顔を出す
モモンガ



気になる！

ムササビの1日の生活

あなたはムササビが毎日どんな暮らしをしているか知っていますか？
彼らは私たち人間とは真逆の生活をしています。

ムササビは夜行性

外が暗くなると巣から出て、木々の間を飛び渡りながら食べ物を探しに行きます。ムササビの目は少ない光でも周りが見えるようになっていたため、暗闇の中でも活動できます。食事と休憩を繰り返して、日の出前に巣へ戻ります。



0 時

活動時間

6 時

日の出までに
巣に帰る

睡眠時間

18 時

日没の
約 30 分後に
巣から出る

12 時

※1月の日の出・日没時間に
合わせています。

日中は巣内で睡眠

日中の明るい時間帯は、大木の樹洞（じゅうどう：木のほら穴）や建物の屋根裏の中に作った巣で寝て過ごしています。寝相は様々ですが、仰向けで寝る姿も巣内カメラで観察されています。親子で寝る時は体を寄せ合って、同じ巣で寝ます。



ムササビの子育て

ムササビは1年間に2回の繁殖期がある

ムササビには初夏（6月頃）と冬（12月頃）の年2回の繁殖期があります。繁殖期を迎えると交尾の後、約2～3ヵ月の妊娠期間を経て出産します。子育て期間は生後約4ヵ月で、親は一度に1～3頭の子育てを行います。そのため春や秋には体の小さな子供の姿が見られるかもしれません。

樹洞から顔を出す
ムササビの子供



つながる

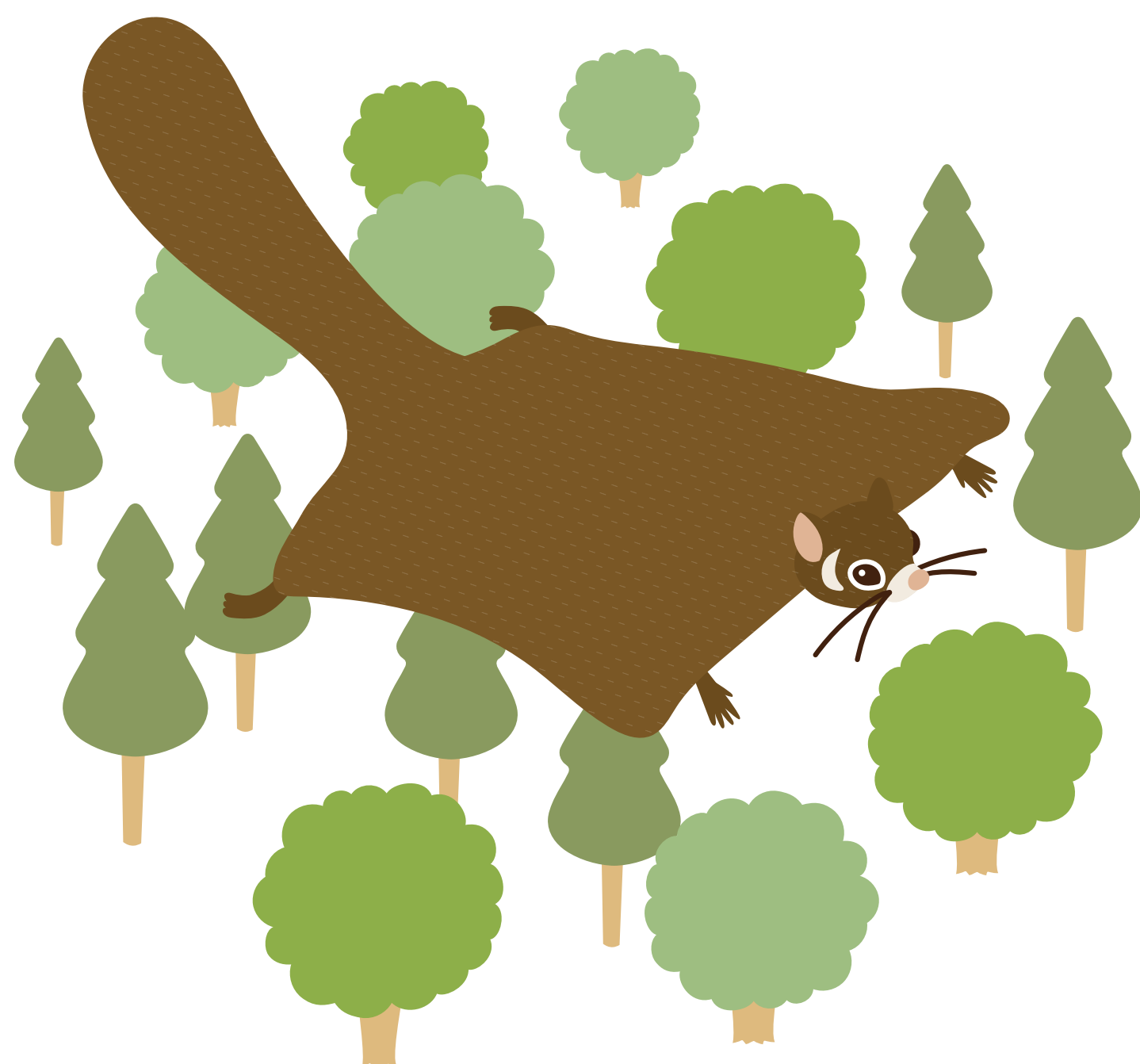
樹とムササビ

長年人々と共に高尾山で暮らしてきたムササビ。
彼らが高尾山に暮らし続ける理由は“樹”にありました。



背が高い樹々

高尾山の樹々は背が高いです。
ムササビの「滑空」という飛翔方法は、飛ぶ位置が高いほど飛距離を伸ばせるため、ムササビにとって移動しやすい環境が整っています。



多く残る大木

ムササビは子育てから寝床まで樹洞を利用します。体が大きいため、直径の大きな樹木を好んで利用します。



「殺生禁断」の教え

高尾山では木々の伐採が禁止されてきたことにより、今でも樹齢 100 年を超えるような大木が多く残されています。1 号路浄心門の裏には、この「殺生禁断」の教えを象徴する、大きな石碑が建てられています。

それぞれの時代が護り繋いだ高尾山の森

戦国時代

信仰の山として人々に大切に守られてきました。北条氏は、八王子城周辺の防衛の要として森林伐採を厳重に取り締まりました。

江戸時代

大久保長安により、竹木の保護が命じられました。また、江戸から高尾山を経由して富士山を目指す「富士講」の流行が、高尾山の信仰を拡大させました。

明治時代

明治時代に入ると高尾山の森林の大部分が皇室財産である「御料林(ごりょうりん)」とされ保護されました。

近代～

「明治の森高尾国定公園」に指定され、自然公園内の保護や、自然体験の場として利用が進みました。

グルメな！

ムササビのごはん事情

旬の食材を楽しむグルメなムササビ

高尾山には多種多様な植物が自生していることから、「植物の宝庫」とも呼ばれています。一生のほとんどを樹上で過ごすムササビは、多種多様な樹木の中から、好みのごはんを選びます。



ムササビの食べあと

動物にはそれぞれ食事の仕方に特徴があります。ムササビのごはんの食べ方を知ることによって、彼らがそこにいた痕跡＝フィールドサインを見つけることができます。



枝の切り口

ムササビが噛み切った枝は、必ず斜めの切り口が残ります。



左右対称に食べたあと



葉を縦半分に折り、苦み成分が少ない中央部を食べることが多いです。



散らばる食べあと

ムササビは、自分が食べない部分を、その場に捨ててしまいます。

旬の食材を楽しむ高尾山のムササビ

| 春 | 夏 | 秋 | 冬 |
|--|---|---|---|
|  カシワの花 |  コナラの葉 |  カヤの実 |  コナラの冬芽 |
|  ヤマザクラの花 |  イヌシデの実 |  オオモミジの実 |  ツバキの蕾(つぼみ) |

ムササビが高尾山で食べている植物は30種類以上！季節に応じて、お気に入りの食べ物をお召し上がりしています。

季節で変わる

高尾山ムササビ

食べあとマップ 春 夏

春から夏にかけては、ムササビが好んで食べる花や実が沢山ある季節です。食べあとを探してみましょう！



ヤマザクラの花

観察時期：4月頃

春のお花見の時期に山頂付近の5号路でよく見られます。



イヌブナの花

観察時期：4～5月頃

枝に付いた花を器用にかじり取って食べます。



ウラジロノキの花

観察時期：5月頃

花の他に葉も好物です。秋には赤い実も食べています。



クヌギの葉

観察時期：5～9月頃

左右対称のかじられたあとが、見つける時のポイントです。



ブナの実

観察時期：6～9月頃

標高の低い山には珍しい樹木の実で、よく殻が落ちています。



アカガシの実

観察時期：8～9月頃

まだ茶色に熟していない緑色のどんぐりが大好物です。

季節で変わる 高尾山ムササビ 食べあとマップ 秋冬

秋から冬にかけては、登山道沿いの見通しがよくなり、食べあとがを見つけやすい季節です。ぜひ探してみてください！



モミジの実

観察時期：9～11月頃
紅葉の時期が近付くと、様々なモミジの実を食べ始めます。



カヤの実

観察時期：9～10月頃
ムササビがタネを食べた後の残った果肉が落ちています。



アカガシの葉

観察時期：1～3月頃
冬も落葉しないアカガシの葉は貴重な栄養源になっています。



コナラの冬芽

観察時期：12～3月頃
冬芽は「葉っぱの赤ちゃん」。枝からかじり取って食べます。



スギの花

観察時期：1～3月頃
花粉症の方の大敵であるスギの花はムササビのごはんです。



ヤブツバキの蕾

観察時期：12～2月頃
冬に花が咲くヤブツバキ。蕾をよく食べています。



守ろう！

ムササビ観察マナー

ムササビは長年人々のすぐそばで暮らしている高尾山の住人です。
この先もムササビが高尾山で暮らしていけるように、人とムササビに配慮した観察を心がけましょう。

赤色の光で観察しよう

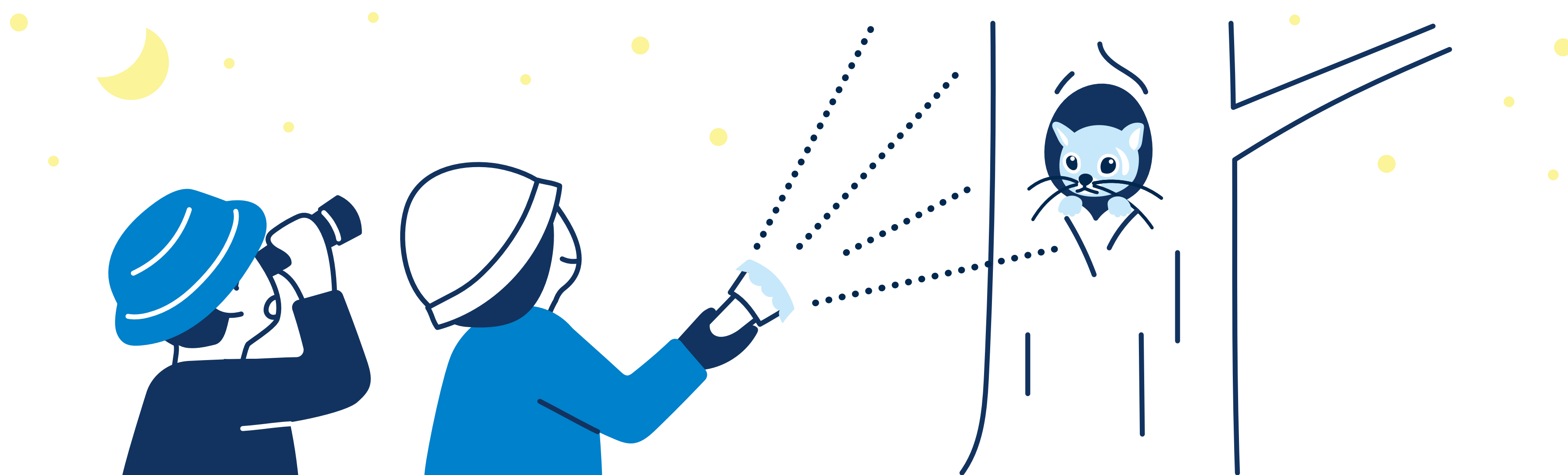
夜行性のムササビの目に優しい赤色ライトを使用しましょう。白いライトでも、赤セロファンを複数枚重ねることで赤色ライトの代わりになります。

ライトの当て方を工夫する

長時間照射・フラッシュ撮影は避け、光量の少ないライトの端を当てるなど工夫しましょう。さらに、手で覆うなど、光量を弱める工夫しましょう。

巣穴の場所は公開しない

巣穴はムササビが安心して過ごすための場所です。不特定多数の人が見るインターネット上に、巣穴の位置を公開しないようにしましょう。



譲り合って観察する

高尾山には観察者をはじめ、多くの人が来山します。お互いに配慮し譲り合って観察しましょう。

環境に配慮した観察を

ムササビが暮らす森の環境にも配慮し、大きな声は控え、ゴミの持ち帰りを徹底しましょう。

環境も観察対象に

野生動物であるムササビは、姿を現さないこともあります。五感を研ぎ澄ませ、夜の森を感じる事も、ムササビ観察の楽しみのひとつです。

ムササビが快適に暮らせる山

保護のボタンはあなたの手に

高尾山が開山されてから約 1300 年。長年の保護が功を奏し、高尾山はムササビの暮らしに理想的な環境になりました。それぞれの時代の人々が守り繋いだ自然保護のボタン。それは今、高尾山を訪れているあなたの手中にあります。

